

令和5年度の取組みについて

1 「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」の検討について（案）

尼崎の森中央緑地、尼崎運河、魚釣り公園など、森構想エリアの各所において環境学習が行われている。また、森構想エリア内の企業やその他団体も環境学習に取り組んでいる。しかし、その対象や目的は各活動で様々であるため、それらを明確化し十分な連携や効果を生むことを目的に「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」を検討する。その上で、森構想エリアである尼崎南部地域を、環境学習が集中する先進的な地域としてアピールしていくことを目指す。

①構想エリア内の環境学習についての調査

- ・中央緑地、運河ほか、企業、団体などの取組みを確認、調査
- ・それぞれの目的、趣旨やより効果的な実施方法、課題などを探る

②第1回森づくり協議会（9月上旬）での報告・議論

- ・上記1の調査結果を報告し、新たな取組みを議論

③環境学習フェスティバル（9月23日予定）等の情報発信イベントの開催

- ・構想エリア内の環境学習を広く知ってもらう機会とするとともに、参加者からのヒアリングなどを行い、環境学習ニーズの調査を行う。

④上記を踏まえ「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」のとりまとめ

- ・第2回森づくり協議会で議論、検討を行う。
- ※必要に応じ、環境学習へ携わる者からのヒアリングを行う。

2 環境学習フェスティバル（県民センター事業：新規）

構想エリア内での環境学習の取組みを紹介、アピールするほか、森づくりを含む構想策定後20年の成果を披露する機会とする。

3 尼崎運河クルーズ社会実験イベント（県民センター事業：新規）

貴重な地域資源である尼崎運河を活用し、2025年大阪・関西万博開催時のシーズン定時運行に向けて運河クルーズを集中開催し、魅力を発信する。

4 21世紀の森国際支援事業（県民センター事業：新規）

海外からの旅行者、尼崎スポーツの森を利用する海外アスリートに対し、その意義・魅力を伝え、森構想の国内外へのアピールを支援する。

- ・茅葺き民家での日本文化体験を実施し、その模様をSNS等で情報発信する。
- ・中央緑地ほか、尼崎運河等の構想エリア周辺の魅力を伝えるツアーを実施する。

5 尼崎の森構想エリアツアー（継続）

これまで新型コロナウイルス感染症拡大により実施できなかったが、引き続き実施に向けた取組を進める。

6 SDGsの取組（継続）

「尼崎21世紀の森づくりSDGs推進ガイドブック」及び「SDGs顕彰制度」を活用し、構想エリア内でのSDGs活動を支援する。